

大学生がつくる
若者のページ

一橋大学

(国立市)

私たち一橋大学のMOS (Magnetism of Sweden=スウェーデンの人を引きつける力) は、スウェーデンのストックホルム商科大学との2週間ずつの交換ホームステイを中心的な活動としているサークルです。両国の学生10人ずつが互いのパートナーを決めてホームステイをしあうことで国際交流をするというユニークな団体です。



書道初体験の現地女性とMOSメンバーいづれもストックホルム商科大

さらに、ただ交流して終りではおない。相手の国に自国を紹介し、双方の交流を促進するという目的がある。

スウェーデンで「日本デー」

伝統文化やアニメ・カラオケを紹介

イベントのメインともいえるべき講演をする予定だったスウェーデンの大企業の方が急遽(きゆうきよ)、海外へ行かざるをえなくなり、参加できなくなつたのだ。

険悪になるスウェーデンの学生たち。英語に訳してもらって徐々に事態を把握する私たち。講演会にはすでに予約者がたくさん入っている。中止にするにしても、誰か代わりに人に講演してもらわないと、楽しみにしている人々に申し訳ない。これが、私たちの出した結論だった。その日は大学近くのフューズレストランで夕食をとり、現地の学生らと翌日の成功を祈ってホームステイ先へ

思いを共感してくれる企業に出会えた時の喜びは言葉にはできないほどだった。毎週毎週、このイベントのことばかり考えてきた。ついに、それが形になるのだ。

始まることも、たくさんストックホルムの人々が会場に現れた。すでに、日本食紹介のコーナーには行列ができていた。みそ汁やおにぎり、和菓子の夫人気は、日本人として非常に誇りに思えた。また、ストックホルムで活躍されている日本人の書道家や折りの和職人のほか、スウェーデン人の生け花アーティストに講師として伝統文化を紹介していたのだ。初めて書道に挑戦するである

Nippon Dayについてお伝えしたい。
2月28日にスウェーデンに到着してからというもの、私たちは非常にエキサイティングな日々を送っていた。スウェーデン企業を訪問して国際的に活躍されているビジネスマンの話を聞いたり、超人規模なパーティーに参加して圧倒された、と日本では考えられないようなことばかりであった。
しかし、このスウェーデン滞在の主たる目的は、そろそろ、Nippon Dayの開催である。会場となるストックホルム商科大学や近隣の大学でイベントの宣伝をしたが、予想以上に現地の人々は私たちに優しく接してくれ、イベントの成功を期待できた。そして、イベント前目を装飾して、会場である大学のホールを飾りつけた時に「事件」は起こった。なんと、



紙で作った絵馬に願いごとを託すスウェーデンの女性

そして、講演会にはなんと、スウェーデンの現職国会議員であるアサンヌ・ガヤさんが来て、日本人女性の社会進出について話していたのだ。彼女は実際に日本で生活されていたので、参加者も非常に感銘を受けていたようだ。
イベントは終わった。Nippon Dayはもう5年以上も毎年行われていたのだが、過去最高の出来だったと、私たちは自信に満ちていた。終了後のパーティーでは、満面笑みのメンバーたちとともに、私は人生の中で

たえ合うことができた。海外の人たちと、しかも、自分のまったく知らない土地でこんな大きなイベントを成功させることができ、スウェーデンの学生と一つのものをつくりあがる喜びを知ることもできた。私たちは3月1日毎に日本で開催くSweden Day